Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

「被災地内看護職との協働による避難所・仮設住宅・在宅における看護活動（宮城班）第二報」

2020 年 2 月 24 日

報告者：佐々木久美子　太田晴美　酒井明子

1．活動概要

1）活動日時：令和 2 年 2 月 24 日（日）8：00-16：30
2）活動場所：宮城県黒川郡大郷町中粕川分館
3）活動目的：被災者、自治体職員および支援者に対する二次被害の予防活動を実践する。
4）活動内容：
（1）１部（被災者対象）：大郷町中粕川地区（土手崎地区）の自宅で生活している住民と仮設住宅に住む住民との交流および健康支援
①餅つき：講師は鳥海正弘氏（みどり会農産加工株式会社代表取締役）
餅文化のある中粕川地区における住民を主体とした活動
②講話・瞑想：講師は大下大圓氏（飛騨高山千光寺 住職他）
（2）２部（支援者対象）：講話・瞑想：講師は大下大圓氏（飛騨高山千光寺 住職他）
大郷町役場自治体職員の水害以降の活動の振り返りと今後の活動へのサポート
5）活動者：
（1）　大郷町役場：千葉氏　佐藤氏等
（2）　大郷町社会福祉協議会：及川氏等
（3）　日本災害看護学会：　リーダー　佐々木（宮城大学）
メンバー　臼井（常葉大学）・太田（東北文化学園大学）
増田（福井大学附属病院）・酒井彰久（福井大学）
酒井明子（福井大学）・長尾（宮城大学学生）
（4）日赤宮城県支部（豚汁担当）
（5）大郷町婦人防火クラブ（厨房担当）
（6）東北福祉大学大学生（リアカフェ担当）

2．活動の実際

活動前日（2 月 23 日）　スタッフ・講師打ち合わせ（場所：宮城大学サテライトキャンパス）
＜2 月 24 日＞

時間	活動内容
8：00	中粕川分館集合　　スタッフ打ち合わせ 会場設営（清掃・屋外テント張り・屋内レイアウト・餅つき準備・あおぞら市準備 炊き出し準備

9：30	受付　住民参加者への健康チェック （＊現在の健康状態、移動歴、必要時血圧測定） 交流会（住民同士・大下先生と共に懇談座談会） 炊き出しおよび餅つき準備
10：00	第１部主催者挨拶 ・スタッフ紹介 ・手洗い指導
10：10	講話：呼吸法の瞑想であなたも元気に! 講師　大下大圓氏 （飛騨高山千光寺住職・日本臨床宗教師会副会長・他）
11：20	大郷町長　挨拶
11：25	餅つき・炊き出しへの参加のために、参加者の方は再度、手指消毒・マスク・手袋を着用 講師　鳥海正弘氏　「大郷のいのちを育み、明日へつなぐもち文化」 （みどり会農産加工株式会社代表取締役） ・炊き出し（豚汁）：日本赤十字社宮城県支部 ・リアカフェ：東北福祉大学学生 交流会
12：50	第１部終わりの挨拶
13：00	片付け・２部会場準備 １部：交流会の片付け ２部：講話の準備
13：20	第２部：会場設営終了
13：30	第２部始まりの挨拶 ・主催者挨拶 ・講師紹介
13：35	講話： 大下先生の指導の下、自治体職員が水害以降の活動を振り返り明日からの活動に活かす。
14：40	第２部終わりの挨拶 ・参加者からの感想
14：50	掃除・片付け 支援者による振り返り
16：30	終了

３．課題と対策

１）新型コロナウイルス感染症については、感染経路が明らかではない患者が国内で散発的に発生しているが、2 月 24 日の段階では、まだ大規模な感染拡大が認められている地域はなく、宮城県内の感染者は認められなかった。しかし、基本的な感染症予防対策として手洗い、咳エチケット、導線の検討などを徹底することが重要であることを前日の打ち合わせでも話合い、以下のことを実施した。(2 月 26 日に今

後２週間は、イベント中止、延期又は規模縮小等の対応要請が政府から発表された）
①室内消毒
②室内換気
③清潔不潔ゾーンの検討
④健康チェック：移動歴、咳・風邪症状、その他健康相談（血圧測定等）
⑤手洗い：実施前、全員に手洗い方法を説明実施

２）活動目的は、被災者、自治体職員および支援者に対する二次被害の予防活動を実践することであった。このため、午前中は、被災者対象、午後は支援者対象の２部構成で実施した。午前中は、餅文化のある中粕川地区における住民が主体となる活動と大下大圓氏（飛騨高山千光寺 住職他）による講話・瞑想を実施した。静（瞑想）と動（餅つき）がこころのバランスを整え、癒しとなる豊かな時間が流れた。午後は、支援者のための瞑想の時間であったが、被災者でもある支援者は、水害後の自身の生活問題をゆっくり振り返り、心的エネルギーを充電する時間となった。

３）水害後の大郷町は、堤防復旧の目途がたった段階で、仮設住宅での生活を余儀なくされる住民も多く、今後も生活を支えていくための更なる地域連携が求められる時期であった。今回のイベントには、大郷町役場職員、大郷町社会福祉協議会職員、大郷町婦人防火クラブ、日赤宮城県支部、青年奉仕団、宮城大学教員、常葉大学教員、東北文化学園大学教員、福井大学教員、福井大学附属病院看護師、宮城大学学生、東北福祉大学学生など多くの団体の支援者が集い、餅つき、豚汁、青空市場、リアカフェなどのイベントを行うことができ、地域連携の重要性を再確認する機会になった。特に地域の文化や強みを活かしたイベント開催であったことは今後の地域の絆を更に強める契機となった。

４）大郷町長、区長、役場職員と共に活動することができ、行政と地元の住民の方々との交流を深め、こころの交流を橋渡しする機会となった。また、現在、中粕川地区の５割の住民が自宅で生活し、４割の住民が仮設住宅で生活しており、自宅と仮設との生活の乖離、コミュニテイの分断が懸念されていた。しかし、今回のイベントでは、仮設住宅からの参加者もおり、自然な交流が図られていた。水害後、お互いに会うことはなったが久しぶりに再会した方々、一人暮らしで誰とも話さなかった方々などにとっても楽しく語る時間となり、コミュニテイの輪が広がった。

５）大郷町役場の保健師活動への期待と今後の交流を考える機会となった。大郷町保健師からは、住民の生活の場は、避難所から仮設住宅へと移行していったが、住民の生活を点でなく線で捉えることが重要であること、保健師は地域における保健活動が基本であり、仮設など地域に出ていき、生活再建に向けて支援を継続していきたいとの発言があった。今回の水害で、死者・行方不明者はゼロであり、もともと 30 年に一度水害に見舞われている地域ということもあり、防災意識は高い地域ではあるが、生活の場の変化と共に、力や意識の差や地域格差問題も噴出しており、住民も悩んでいるため地域住民が主体となる仕組みを検討していきたいとのことであった。日本災害看護学会としても今後支援を継続していきたい。

４．写真

みんなで手洗い練習

大下大圓氏による講和・瞑想

大郷町長のお話

区長さんによるお餅つき

お餅（ずんだ・あんこ・しょうが醤油）

支援者集合写真